

令和4年度 ふるさと教育 取組事例

学校名	雲南市立三刀屋中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 の時間	三中ハッピープロジェクト ～地域の幸せのために自分たちがで きること～	三刀屋こども園、三刀屋郵便局など 地域の方々
ねらい		身近な地域から投げかけられた多様な要請や困り事を、積み重ねてきた経験や地域アドバイザー、学級の仲間との協働によって貢献策を考え実際に実践することを通して、地域に貢献する意義を理解するとともに自らも地域の一員として積極的に地域社会に参画しようという態度を身につける。	
<p>1 取組の概要</p> <p>1) 地域講師や三刀屋高校JRC部顧問から地域に係わる意義や地域貢献活動の計画から実践までの進め方について話を聞く。</p> <p>2) 地域からの依頼を整理し、各グループで取り組む課題を決定する。</p> <p>3) 依頼があった関係機関に出向き、依頼について詳細を聞く。</p> <p>4) 地域貢献活動の内容を考える。</p> <p>5) 他グループや地域アドバイザーの方の助言を受けながら、自分たちの貢献策を練り上げる。</p> <p>6) 地域貢献活動を実践する。</p> <p>7) 地域貢献策について個人で振り返りを行うとともに、グループでも自分たちの学びについてまとめ、クラスで発表する。資料を校内にも掲示し、地域貢献活動の意義や今後継続していく上での改善点を後輩達に伝える。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>1) ふるさとのために自分たちができることを具体的に考え実践する場の設定 これまで様々な形で学びを提供していただいた地域に対して、実際に自分たちが行動し地域の方々に喜んでもらう体験を通し、地域社会に積極的に参画しようという態度を育てる。</p> <p>2) 地域貢献活動について地域の方との協働を行う場の設定 地域の活性化に尽力されている方々との協働を通して、地域のよさを守る工夫や努力について実感的に捉え、地域への貢献意欲を高めることができるようにする。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>1) 地域貢献活動を通して、協働性の向上を目指す。 地域貢献活動を進める過程において、地域アドバイザーや学級の仲間たちとの協働的な学びを通して、個人および集団の考えを深めていく力を高めるようにする。</p> <p>2) 地域貢献活動を通して、課題対応能力を高める。 地域貢献活動を進める上で必要な情報を収集するとともに見通しを持って計画を立て、実施に向け調整をしていく力を高めるようにする。</p> <p>3) 地域貢献活動を通して、表現力を高める。 地域貢献活動を進める過程において、地域アドバイザーや学級の仲間たちとの対話を繰り返したりすることで、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>1) 地域貢献活動を通して、あらためて地域のよさや課題に気づき、自分たちが地域に貢献する意義を知り、地域社会に積極的に参画していこうという生徒が増えた。</p> <p>2) 自分たちの活動が、地域の多くの方々の協力があってこそ実現できたことを実感し、自分たちも継続して地域に貢献していこうという意欲が感じられた。</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

(学力育成の視点から)

- 1) 地域アドバイザーの方との複数回に渡る協働の機会を通して、対話を繰り返したり、まわりからの助言を活かしたりして、よりよい考えを目指し深める力がついたという生徒が多くいた。地域の方からも、自分たちの言葉で自分たちの思いや意見をしっかり伝えたという評価であった。
- 2) 「自分たちが考えた事を実践にまでつなげる」という課題を設定したことにより、昨年度、地域活性化策の考案に取り組んだ時とは異なり、必要に応じて関係機関に問い合わせをしたり、地域アドバイザーに対して自分の考えを提案したりするなど主体的に行動する姿が多く見られた。

～生徒の感想から～

この活動を通して、地域の人たちの声を聞き、あらためて地域の課題などに気付くことができました。自分たちで最初から最後まで計画を立てて1つの活動をするのは初めてで大変だったけど、地域アドバイザーの方々が一緒に考えてくださったおかげで何とか最後までやり遂げることができました。私たちの制服リユースは、今後もできる活動なので継続してほしいと思います。

ハピプロを通して、ボランティアに参加するのもいいなと感じました。世代間交流センターの看板づくりをするにあたり、学校中にデザインを募集するアンケートをしたりと、やる事がたくさんあって大変でした。「この期間にこれをしないと間に合わない。」など計画的に物事を進める力がついたんじゃないかと思いました。今後、ボランティアに積極的に参加していきたいです。

このハピプロをするまでは、ここまで本格的にボランティアみたいなことはありませんでした。ただ人に言われたことだけをするのは簡単でも、自分たちで担当者の方と話し合いながら準備から活動まですると、時間がかかってとても大変ということがわかりました。準備の段階で電話することによって上手に電話できるようになれたし、自分が考えていることを言葉にするという力もつきました。

このようなイベントを開くにはたくさんの時間と労力があるということが分かったので、三刀屋だけでなく雲南市で行われるイベントなどには参加していきたいと思いました。



～地域アドバイザーからの声～

私たちも、一から始める活動でしたので、どこまでお願いしたらいいのかわかりませんでした。ですが、生徒の皆さんから意見をもらったり、新しい発見もあり、助けられたことがたくさんありました。私たちだけでは、こんなに早く形にできなかったと思います。

生徒さんも当方も初めての取組でしたが、同じ目的に向かって同じ認識を持って取り組めたと思います。当方が思っていた以上に生徒さんの方でアイデアを出して準備を進めていたので、予想した以上の成果となりました。

一緒に活動することで、地域の中でお互いを身近に感じ、地元への思いもふくらんでいくと思います。

4 課題や今後の展望

今年度初めて地域の方々の協力を得ながら地域貢献活動に取り組み、地域との協働によるより深い学びが実現できた。この学習を、今後継続していく上での一番の大きな課題は限られた3年生の「総合的な学習の時間」の中で、この学習の時数をどう確保していくかである。今年度の単元計画を見直すとともに、職場体験学習を含めた年間指導計画や学校行事等学校全体の横断的なカリキュラムの見直す必要がある。

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)